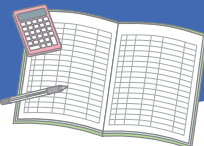


# 五所川原市の家計簿



「財政」、「決算」という言葉を聞くと「なんだか難しそう」と感じていませんか？  
でも、決算は市民の皆さんに納めていただいている税金の使い道であり、生活に密接に関わっています。そこで、分かりやすい決算を目指して、このページを作成しました。これをきっかけに市政に関心を持っていただくと幸いです。

4ページでは、決算状況を家計簿に例えて解説し、5ページでは、項目をあげて解説します。

## 決算状況を家計に例えると…

市の財政は数字が大きすぎて実感がわかないかもしれません。そこで、平成29年度普通会計の決算を、一般家庭の家計簿に置き換えました。決算全体を見ると、収入・支出ともに昨年度よりも増加しています。これは、市役所新庁舎の建設・つがる克雪ドームの改修事業などにより「家の増改築費(普通建設事業費等)」が増加し、それに伴って「銀行借入(市債)」が増加したためです。では、収入・支出それぞれの面から状況を見ていきましょう。

家計簿なら  
僕もわかるかも！



## 収入

収入は、市が国に依存しない「自主財源」と、国等からの補助による「依存財源」に分類できます。「自主財源」が多いほど自主的な運営ができます。家計に例えると給料(市税)やパート収入(使用料等)などの下表の色部分が自主財源で、金額は78万円、収入全体の22.0%です。市の家計は、親からの仕送り(地方交付税等)や親からの援助(国庫支出金等)などの「依存財源」に頼らざるを得ない状況となっていますが、そういった中でも、有利な財源の確保に努めることで、よりよい財政運営を行えるように工夫しています。

(億円(家計としてみるときは万円))

家庭での収入	市での歳入	H27	H28	H29
親からの仕送り	地方交付税、各種交付金	129	125	127
親からの援助	国庫支出金、県支出金	77	77	72
銀行借入	市債	60	41	77
給料	市税	51	52	52
パート収入	分担金および負担金、使用料および手数料	5	5	5
預金引出	財産収入、繰入金	5	10	15
繰越金	繰越金	1	1	1
その他収入	寄附金、諸収入	5	6	5
収入合計		333	317	354

\*収入から支出を差し引いた額のうち5万円を、将来の支出に備えて貯蓄しています。

## 支出

下表の色部分に示した食費(人件費)、医療費(生活保護などの扶助費)、借金の返済(公債費)の3つは「義務的経費」とよばれています。特に医療費(扶助費)は、子育て支援、少子高齢化に伴う福祉、生活保護費などによって増加傾向にあります。また、高度成長期に整備された公共施設等が老朽化することに対応するため、家の増改築費(公共施設の整備)も増加しています。収入に対して、経常的に必要となる生活費(経常的経費)の割合を示す「経常収支比率」は98.2%であり、資金繰りは余裕のない状態です。

(億円(家計としてみるときは万円))

家庭での支出	市での歳出	H27	H28	H29
食費	人件費	34	34	34
医療費	扶助費	74	80	78
借金の返済	公債費	47	47	48
家具等の修理代	維持補修費	7	6	8
子どもへの仕送り	公営企業会計負担金・補助金・出資金、一部事務組合等負担金、特別会計繰出金	58	56	58
光熱水費	物件費	32	33	31
冠婚葬祭費	補助費等(公営企業会計負担金・補助金、一部事務組合等負担金を除く)	12	11	11
家の増改築費	普通建設事業費等	60	41	79
投資・出資・貸付金	投資および出資金、貸付金(公営企業会計出資金を除く)	0	0	0
貯蓄	積立金	1	1	2
支出合計		325	309	349

## 市の財政状況は…?

市の財政状況を知るための指標に「健全化判断比率」があります。

どの比率も基準を下回っており、借入金(市債)の返済額の大きさを指標化した実質公債費比率、借入金や将来支払う可能性のある負担等の現時点での残高を指標化した将来負担比率は、どちらも前年に比べ低下しています。

しかし、市の財政は依然として厳しい状況です。収入も大きな増加が見込めない中で、安全・安心な市民生活の維持・向上のためにも、事業のたな卸しによる見直しを行い、計画的な財政運営を推進していきます。

	H27	H28	H29	早期健全化基準(H29)	財政再生基準(H29)
実質赤字比率	-	-	-	12.65	20.0
連結実質赤字比率	-	-	-	17.65	30.0
実質公債費比率	13.5	13.1	11.8	25.0	35.0
将来負担比率	150.9	141.2	136.5	350.0	-

## 行政はどうして借金をするの？

道路や公園、学校などの施設は、将来にわたって長く使われます。これらの施設を整備するために「市債」という借金を活用し、返済によって支払いを後年に分けています。施設を利用する全ての世代に、建設費用を公平に負担していただいています。

行政の借金は、家計簿にある毎月の生活費でなく、住宅ローンのような将来にわたって使い続ける大きな費用のために使われています。



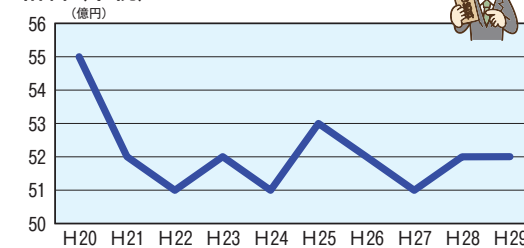
## ここ数年の状況は…? (H20~H29)

4ページの家計簿内に登場した項目別にここ10年の状況を見てみましょう。もっと詳しく知りたい方は市ホームページでも情報を公開していますので、ご覧ください。右QRコードからアクセス可能です。



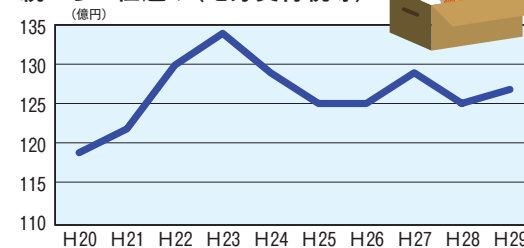
## 収入

### 給料(市税)



市税は、リーマンショックに始まった世界的不況により平成21年度から大きく落ち込みました。平成25年度は、たばこ税の税源移譲により増収となったものの、その後のたばこ消費減等で税収減となっています。平成28年度は農業所得の増加、軽自動車の重課税率適用開始による個人市民税、軽自動車税の増加が主な税収の増加要因となっています。

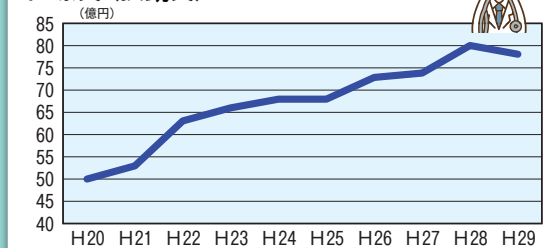
### 親からの仕送り(地方交付税等)



地方交付税等には、使い道の拘束されない財源で国や県からの交付金が含まれています。平成27年度は消費税増税により増加し、また平成29年度でも公債費への算入分増により地方交付税等は増加しているものの、人口減少等を反映し、今後減少していくと見込まれます。

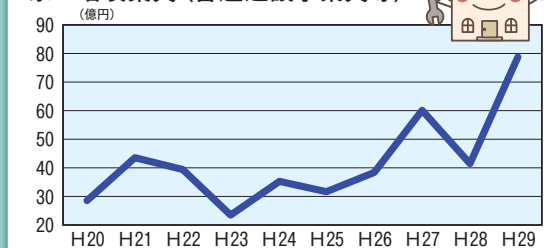
## 支出

### 医療費(扶助費)



扶助費は社会保障制度に伴う経費で、平成29年度では減少していますが、前年度に低所得者や年金生活者に対する臨時福祉給付金の支給があったためであり、今後も生活保護費や施設型給付費などにより、増加していくことが見込まれます。

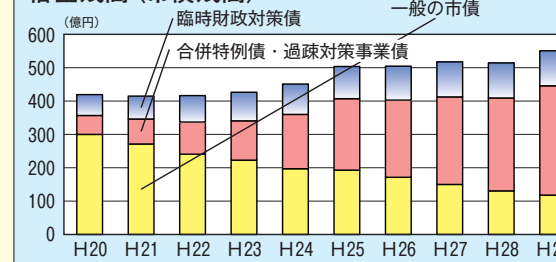
### 家の増改築費(普通建設事業費等)



普通建設事業費は建設事業への取り組みによって増減があり、銀行借入(市債)にも影響します。今後も事業の厳選・集中化と平準化を図り、効率的な公共施設の整備に努めます。

## 市の借金と貯金は…? (H20~H29)

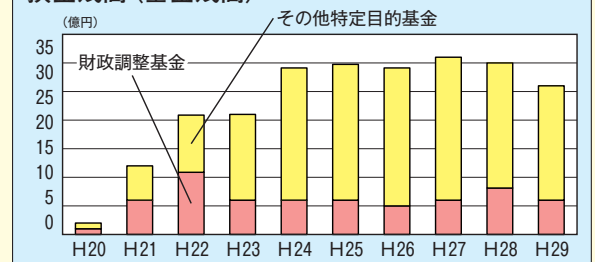
### 借金残高(市債残高)



市債残高は、病院・消防・本庁舎等の建設事業の実施により増加しています。そのため、合併特例債や過疎対策事業債といった国の財政支援措置の厚い市債を活用し、市の実質的な負担を少しでも減らす工夫をしています。

\*臨時財政対策債：全額交付税で財政措置があります。

### 預金残高(基金残高)



家計の貯金に当たるものを、市では「基金」といいます。基金には種類があり、年度間で災害などの突発的な予算の財源の調整を行う「財政調整基金」と特定の目的のために積み立てているものがあります。

平成29年度は取崩額が積立額を上回り、約4億円減少し、残高は約26億円となっています。